

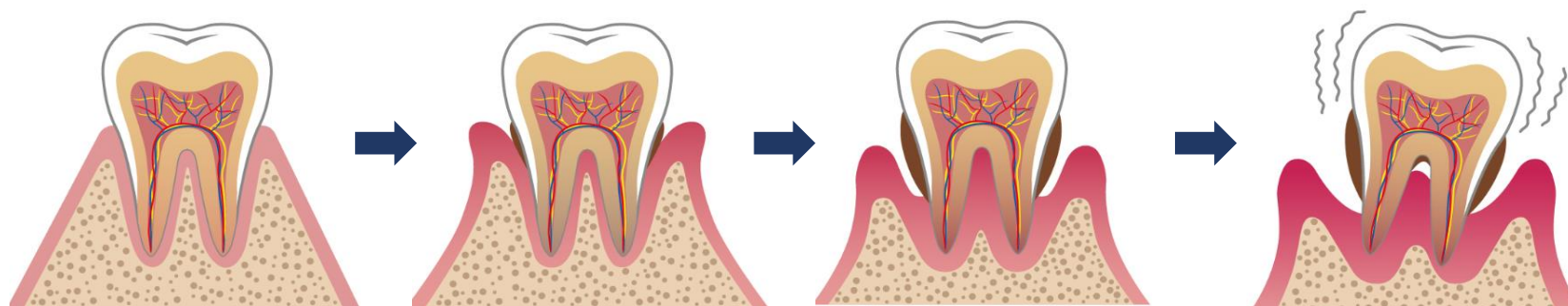


一般財団法人

日本予防医学協会

歯周病検査について

大切なのは 早めのチェック！



健康な状態

歯肉炎

中等度歯周炎

重度歯周炎

自覚症状ほとんどなし

出血する

膿がでる・骨が溶けたす

歯がグラグラする

歯周病検査（歯肉溝バイオマーカー検査）

■歯肉溝バイオマーカー検査とは

炎症によっておこる体の変化（バイオマーカー）を測定します。
見えない変化を数値で表すのが生化学検査です。
歯肉の炎症の度合いや歯周病の予測を行います。

■検査ってどんなことするの？

歯と歯肉の境目には、歯肉溝（ポケット）があります。
ここからにじみ出る液を専用のブラシでとります
歯肉溝を約30秒間、優しくなぞるだけで終了です

3ステップ（3分）で出来る検査です

STEP1 準備



検査キット

手鏡

準備物

STEP2 自己採取



上部の歯と歯グキの境目を、
ゆっくりと約30秒程度ブラシでなぞる

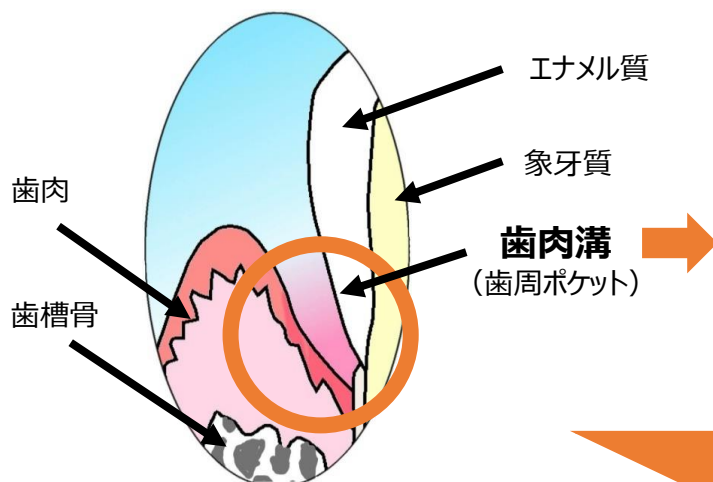
STEP3 保存容器にブラシを入れる



保存容器にブラシを入れ、**しっかりと**蓋をしめる

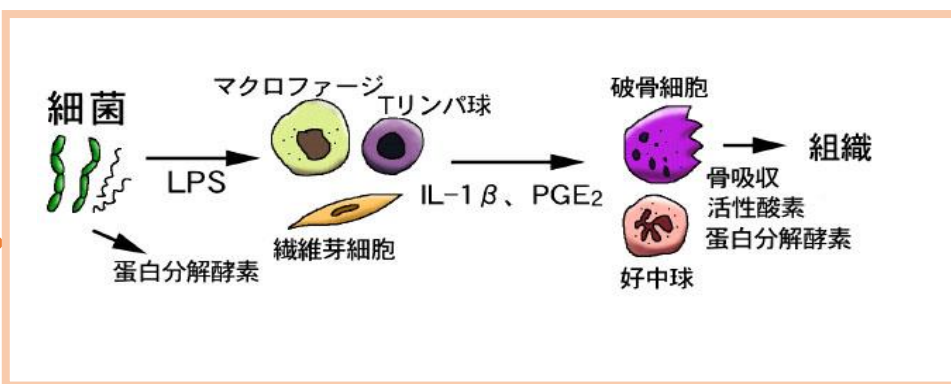
歯肉溝バイオマーカー検査とは

歯肉溝には様々なバイオマーカーが出現



■歯肉溝滲出液の成分■

血清成分・好中球・上皮や結合組織成分とその分解産物、歯肉溝中の細菌とその産生物である毒素や酵素



歯肉溝から歯肉溝滲出液を採取

成分を分析し、炎症の度合い・歯周病の予測を行う

検査項目

炎症マーカー（白血球活動）

Lf : ラクトフェリン（白血球顆粒成分）
炎症（白血球活動）の度合い・歯周病の悪化の予測が出来ます

- A 異常なし（－） 0.4 μ g/mL未満
- B 要注意（±） 0.4 μ g/mL以上
- C 要受診（＋） 0.8 μ g/mL以上

出血マーカー（血漿蛋白滲出）

AT : α 1 アンチトリプシン（血漿・血清蛋白）
歯周病の進行度が確認できます

- A 異常なし（－） 0.4 μ g/mL未満
- B 要注意（±） 0.4 μ g/mL以上
- C 要受診（＋） 0.8 μ g/mL以上

組織破壊マーカー 10 μ g/mL以上：±軽い注意

AST : アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（細胞内酵素）
組織破壊の指標 歯周組織の破壊度が確認できます

- A 異常なし（－） 10 μ g/mL未満
- B 要注意（±） 10 μ g/mL以上
- ※参考値のため、（＋）ありません

上記3項目中、
3つとも（－）の場合
異常なし



1つでも（±）があり
（＋）がない場合
要注意



1つでも（＋）があれば
要受診



検査の結果 個別に以下のお知らせをお送りします。

〇〇株式会社

〇〇課

日予 次郎 様

20

日本予防医学協会 歯周病検査結果 のお知らせ

歯周病のリスク・進行度の確認のため、歯周ポケット内に出てくる液（歯肉溝滲出液）の成分を調べました。
炎症反応を測定しています。健康管理のために、ご参考になさってください。



歯周病検査結果 検査日：

項 目	判 定 基 準	今 回	前 回
	(-) 異常なし (±) 要注意 (+) 要受診	結 果	判 定
Lf (ラクトフェリン) 歯肉炎症マーカー 白血球活動、炎症の度合です	(-) 0.4 未満 (±) 0.4~0.79 (+) 0.8 以上 単位 μg/mL	0.55	(±)
AT (アンチトリプシン) 歯肉出血（滲血）マーカー 血管蛋白漏出、歯周病の進行度です	(-) 0.4 未満 (±) 0.4~0.79 (+) 0.8 以上 単位 μg/mL	2.69	(+)
AST (アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ) 歯周組織破壊のマーカー 歯周病組織の破壊度です	(-) 10 未満 (±) 10 以上 単位 lu/L	4	(-)



総合判定

本検査は歯周病の可能性を調べる検査です。正確な診断は歯科医院にて診てもらってください。
前回歯周病検査を受けていない方は、前回欄は空欄です。



今回の結果は【要受診】です。
検査の測定結果は（+）。歯周病が進行している可能性があります。
早めの歯科医院の受診をお勧めします。
歯周病は歯を失う危険のある病気です。また、心臓・脳血管の病気にもつながると言われています。
お口の健康を守ることが、全身の健康を守ることにつながります。毎日の歯磨き習慣を見直し、お口から健康にしていきましょう。

本検査結果のお問い合わせ
日本予防医学協会九州事業部産業保健推進課歯科保健へ
☎ 092-473-0547 ✉ dent118@jpm1960.org

本検査についての専門的なお問い合わせ
開発元の（株）保健科学西日本へ
☎ http://www.hk-wj.co.jp/

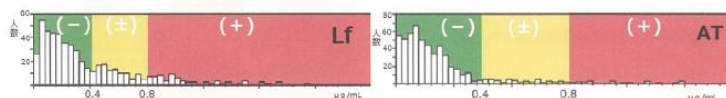
歯周病検査（歯肉溝バイオマーカー）

歯周病は世界の中で最も多い病気であるとも言われています。（2001 年ギネスブック認定）歯肉の炎症が全身に多くの影響を与えていることが明らかになっており、悪玉物質（サイトカイン）がインスリンの働きを邪魔するため、糖尿病や動脈硬化、その他の病気へ影響します。
歯周ポケットの中には、様々なバイオマーカーが存在します。
バイオマーカーの量を測定することで病気の存在や進行度、治療の効果の確認や予測の手がかりに使われています。
本検査は歯肉の奥に潜む炎症をキヤッチし数値化します。
※生体内の物質で病気の変化や反応に相関し指標となるもの



左記 3 項目中、1 つでも（+）があれば要受診、1 つでも（±）があり（+）がない場合は要注意、3 つとも（-）の場合は異常なし

総合判定	歯周病の進行度
異常なし	健康な状態 歯と歯肉のすき間（ポケット）もなく、歯肉がひきしまっている
要注意	軽度歯周病 炎症の始まり 歯肉が赤く腫れ、歯を磨くと出血することがある
要受診	中等度歯周病 歯周ポケットが深くなり、歯に物が挟まりやすく口臭にも影響 重度歯周病 歯を支えている骨が溶けはじめ、歯が動きだす



Lf は歯周病菌に対する防御反応で増加し、AT は炎症により出血しやすい状況になると増加します。

歯周病の正確な診断と治療は、歯科医院で診てもらってください。

お口の健康を守るために、セルフケアと、歯科医院によるプロケアを定期的に受けましょう。

歯科医院の上手なかかり方

1. 伝えたいことはメモにする 自覚症状などは重要な情報。いい忘れることなく要領よく伝える。
2. わからないことは積極的に質問する 治療内容をよく理解し、治療方針は先生と一緒に決める。
3. 治療には限界があることを理解する 治療はあくまでも修復。元通りに再生されることはありません。
4. 歯を守る姿勢をもつ 悪くなってから歯科医院を受診するだけでなく、日頃からのセルフケアを心がける。

